

安東会長記者会見要旨

日 時：平成20年2月19日(火)午後4時30分～午後5時10分
場 所：JASDAQプラザ記者会見場
出席者：安東会長、渡辺副会長、増井副会長

冒頭、渡辺副会長から自主規制会議の審議事項等の概要について、増井副会長から証券戦略会議の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

(記者)

ジャスダック株の大証への売却交渉の現況と、今後のプロセスのスケジュール感をどのように見通されているのか伺いたい。

(安東会長)

前回も申し上げたが、今それぞれがFAの選定の最終段階にあり、来週くらいに双方でFAが決まる。今はシステムの統合に関する大証とジャスダックのCIOを中心とした話し合いを別途進めているところである。

この状況については、概ね順調に進んでいるという報告を受けている。今後のスケジュールとしては、FAが確定して、それぞれのFAがジャスダックに対してデューデリジェンスを行い、それらを基に協会と大証との間で、いつの時点で譲渡するかによっては若干ずれがあるのかもしれないが価格の範囲、あるいは株数等々の話し合いを進めていくというような方向で考えている。

時間的には3月中ぐらいにシステムも含めて株数等々について話し合っていける態勢にあるという現況である。

(記者)

最後におっしゃった部分の確認だが、3月中くらいにシステムを含む株数などについて話し合っていくとは、具体的にはどういうことか。

(安東会長)

3月末に特別委員会の開催を予定しているので、その辺までに中身の目途を立てていけるのではないかと考えている。これからスタグする

ような要因が突発的に出ればそれは分からないが、スケジュール的にはそんな感じで考えている。

（記者）

現時点で会長が想定される範囲内でこの話が破談になるとしたらその要因は何か。

（安東会長）

全く予期せぬことが突然発生することもあるかもしれないが、私としてはそういう局面でも破談にならないようにしっかりとやっていきたい。

（記者）

大証とジャスダックのシステム面での話し合いは、今おっしゃったように順調に進んでいるようには聞こえてこないが。

（安東会長）

私が直接話し合いに入っている訳ではないが、協会からも話し合いに入って中身もきちんと把握している限りにおいては、順調に進んでいるという報告を受けている。

（記者）

大証とジャスダックの話し合いが行われているが、最終的に売るか売らないかの判断は日証協の意思で決めるという理解でよいのか。

（安東会長）

おっしゃるとおりである。少なくとも私どもの持ち分については、どれだけ売るかは別にして、私どもの意思で決めるということである。

（記者）

ジャスダックが進めていたシステムの開発作業は中断しているということだが、確か2月中に再開するかしないのかを決めなければいけないという話を聞いたような記憶がある。今の話では3月末までに決めればよいというように聞こえたが、このシステム開発の中断、再開に関してどういう理解なのか伺いたい。

(安東会長)

システムのスケジュールというものは多少ゆとりがあるので、それらを踏まえて最終が3月末だという認識である。できればその前に、現在のシステムの会社にきちんとした報告、通告をする必要があるだろうということで、1ヶ月ぐらい前には決めておきたいという話だと思う。

(記者)

システムの面が先に決着するという可能性もあるのか。

(安東会長)

というよりもシステムは統合がきちっと見えてこないと先に進まないということである。

(記者)

比率に関して改めて伺うが、日証協としては今保有している72%強の株式について、全部売却なのか部分売却なのか。また部分売却の場合、過半数の売却でもよいという考えなのか。

(安東会長)

新たに保有するというところに対して、過半数は最低限必要だと考えている。

(記者)

システムの話も含めて順調に進んでいるということだが、譲り渡した後の市場の青写真をどのようにお考えか。

また、内部者情報システムの具体的なスキームが決まってきたが、(証券市場基盤整備基金の)拠出金を内部者情報システムの構築に使う狙いについて説明していただきたい。

(安東会長)

当初から申し上げているように、こういった新興市場を構築できるかということが今回の統合の一番最初にくるものである。従って、先程、株式を全部売却するのかどうかという質問があったが、私どもとしては、ある程度は保有しつつ、例えば、ジャスダックの手数料等の問題も発生するし、どこかの時点でヘラクレスと統合していくという中で、日本における新興市場という位置付けを一段と鮮明にしたい。その絵等につい

ては、私どものイメージではあるが、かなり分かりやすくした上で、皆様方にも3月末ぐらいには公表したいと思っている。

（記者）

ジャスダックとヘラクレスを一緒にするという青写真なのか。

（安東会長）

一緒にするだけの青写真ということだけではなく、当初から申し上げているように、日本における新興市場の中核をどのように考えるのか、規制の問題はどうなのか、手数料の問題はどうか、本社はどこに置くのか、あるいは上場審査の問題等々、抱える課題というか問題がかなり多々あるのではないかと思う。それらをこちらの方で整理した上で、勿論、株主が大証に移った後は大証が決める話になるのだが、その前の段階として、双方の理解の上で進めていきたいと思う。

一部で売却だけが目的とか、統合後の姿が見えてこないとおっしゃる方もいらっしゃるがそのようなことはない。今後の進展をよく見ていただきたい。

内部者情報システムについては、まだ額は確定していなが、だいたい（初期費用で）15億円から18億円程度かかる。これは全証券会社に関わってくる話であり、公共のインフラとしての重要な位置付けをもっているので、ジェイコム基金を充てたいと考えた。このシステムを作ることによって、そのランニングコストも年間4、5億円かかってくると思われるが、それらの扱いをどうするかについては、今後、国税との話し合いが必要だと思う。

（記者）

日銀総裁人事について、昨日、国会同意手続きで自民党と民主党が合意するという報道がなされているが、日銀総裁人事でごたごたがあると株式市場にも影響が出てくると思うが、証券業界の立場から次期日銀総裁に求められる資質と就任後の舵取りに期待することは何か。

（安東会長）

日銀総裁の金融政策は、経済に及ぼす影響あるいは証券市場に及ぼす影響が極めて大きい。従って、日銀総裁にふさわしい資質としては、当然、専門性がある。また、最近の金融のグローバル化により、情報が早

く伝わり早く動くので、広い意味での人脈も当然必要であろう。加えて決断力も重要であろう。

何よりも政治の絡みで空白をつくることだけは避けていただきたいと思う。

（記者）

2点お伺いしたい。最近株価がかなり下がったり、空港会社の外資規制の問題があったりと、日本の資本市場のあり方に関する議論が高まっている。会長が1月にヨーロッパに行って海外の投資家と接してみて、日本の市場への期待、あるいは問題点についてどのような印象を受けたのか伺いたい。

また、環境問題に関連して、排出権取引を国内でも導入するかどうかという議論が高まっているが、それについて会長はどのような考えをお持ちか。

（安東会長）

日本証券サミットでの反応であるが、海外の投資家は、日本の株式市場というものは分かっているが、制度や会計、税制（については理解が薄い）。たまたま昨年末に「金融・資本市場競争力強化プラン」が打ち出され、それらを説明する時間もあり、日本を理解しようという姿勢が約350人という大規模な出席者へ繋がったのではないかと思う。たまたま日経平均が一日に700円、500円、二日間で1,200円ぐらい下がったタイミングだったので、そういう意味で、より関心というか興味は深かったのではないかと思う。

日本の株式市場については、昨今、過去になかった新たな資金の出し手、例えばソブリンウェルスファンド、中東の産油国の膨大な資金を背景としたお金が、サブプライム問題で（米国金融機関の）資本増強に瞬時に対応している。あるいは、これもSWFだと思うが、シンガポールのGICが、東京の恵比寿のウエスティンホテルを770億円で買いにくるなど、オイルマネーと一言で言ってしまうとそれまでだが、要するに新たな資金の出し手が新しい仕組みを作り、非常に迅速な対応をし始めている。彼らは日本のホテルも投資対象不動産と考えれば、こういったものに非常に早い対応をしている。それぞれの国がそれぞれのある種のファンドマネージャーを抱えていて、全世界に有利な投資を迅速に決め

る仕組みを持っており、こうしたものが今後、資金の出し手としては期待できるのではないかと思う。

日本の株式市場の PER 1.4 倍というのは過去最低水準で、彼らは基本的にバリュー投資はしてこないタイプなのだが、ベンチマークに勝った負けたという話ではなく、絶対的に 10 % 以上でまわすとか、そういった投資手法、思い切った資金の張り方をしてくるので、今後、世界中にインパクトを与えていく気がしている。

排出権取引については、商社等が中心になるかと思うが、こういったものが投資商品のラインナップに加わっていくということは、投資家にとってはよいことだろう。ただ、今までの投資商品とはスキームが違っているかと思うので、そのあたりを理解してやっていっていただければよいのではないかと思う。

（記者）

内部者情報システムについて、スタートは昨年の春の段階では今年度ということであったが、予定は変わらず 3 月末ごろの稼働になるのか。

（増井副会長）

内部者情報システムのスケジュールは、とりあえず基本合意を締結して、その後、様々な設計、つくり込みを行い、実際の稼働は来年以降になると思う。とりあえず今回は基本合意でスタートに至ったということである。

（安東会長）

若干遅れた理由について申し上げる。当システムでは、事業会社は上場している取引所に、役員等インサイダーにあたる人を登録し、かつ、メンテナンスを毎年行わなければならない。事業会社にご理解ご協力をいただくのにやや時間を要した。また、システムの開発等も含めて若干遅れてしまった。しかし、今の段階ではスケジュールどおりに進むことを期待している。

以 上